

被虐待児に不可欠な「感情成長を促進する環境」

子ども達が自ら心を開き感情成長を促すには、自分たちの境遇に対する理解と情愛を注いでくれる大人達、つまり、施設職員とボランティアの存在、さらに双方の信頼関係がカギを握ります。その信頼関係からは双方の立場を超えた個々への尊重と許容が生まれ、そこから子ども達は「色々な考えや価値観を持つ多様な大人達による情愛」を感じ取ります。言わば、管理・統制などの束縛から外れた「それもあり」という空気感・安堵感が、自然と子ども達の心を開き感情を出すことに働きかけることとなります。弊団はそのような環境を4つの場面で構成されるモデルとしています。

感情成長環境 モデル

- ①情愛場面 子ども達との情愛を育む
- ②応答場面 子ども達の感情を受け入れる
- ③感情場面 様々な感情を共有する
- ④思考場面 なぜそう思ったのか?などを振り返る

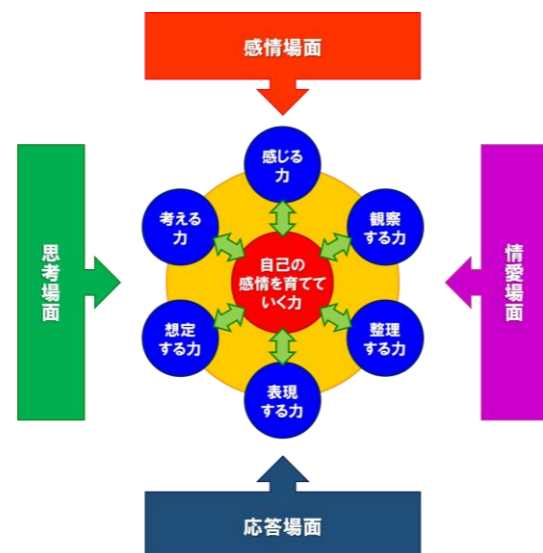


図 感情成長を促進する環境 & 感情基盤 モデル

「感情基盤」とは？

「お楽しみ交流サロン」「おやつタイムシート」「こころ日記」の発想の源泉となっているのは、子ども達の感情形成や成長における6つの課題項目から成り立ち、それらが「自己の感情を育てていく力」となるべく協調連動するという弊団考案の「感情基盤」という概念モデルです。

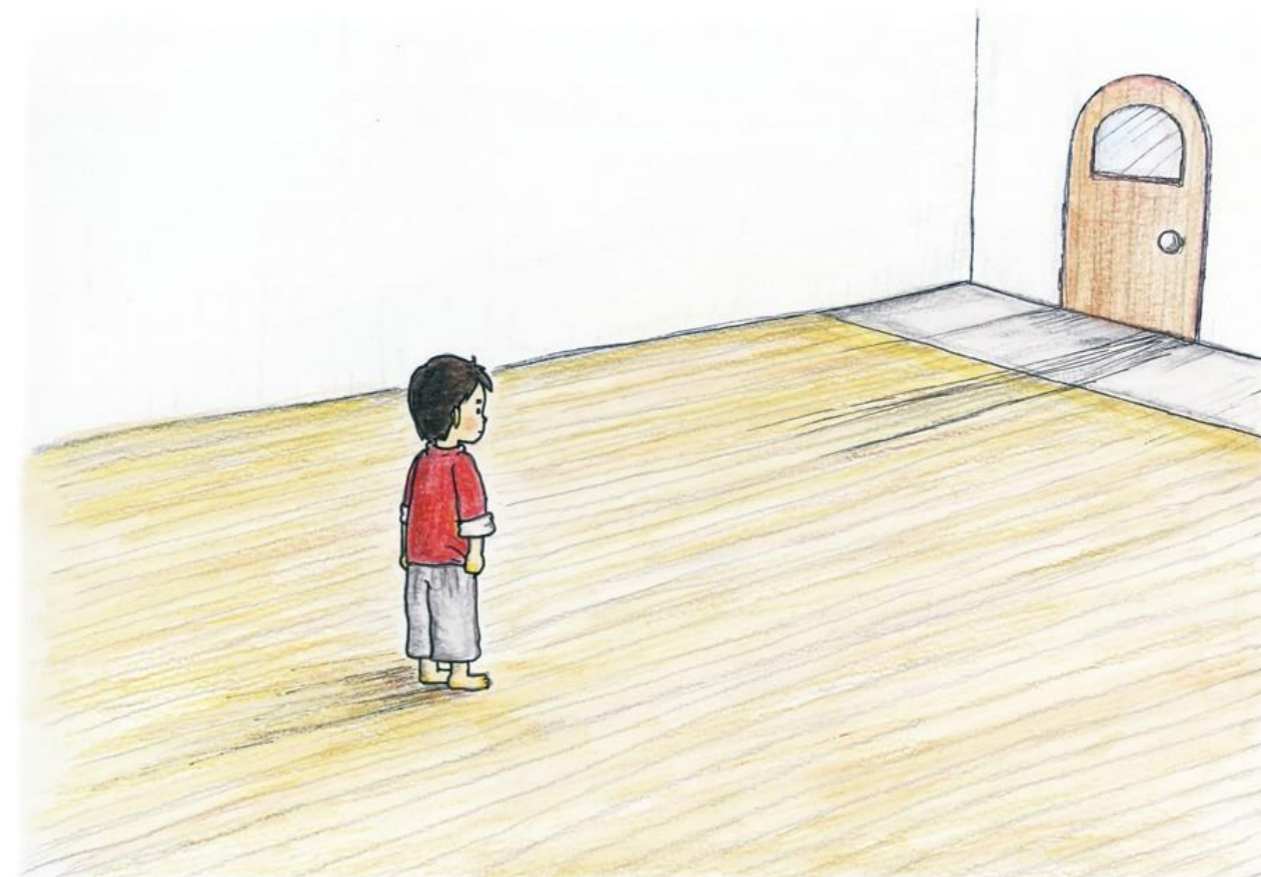
感情基盤モデル

- ①感受/感じる力 ある出来事に対して感情を抱く力
- ②思考/考える力 ある出来事を観察し記憶や体験から関係づけられる力
- ③観察/観察する力 目で見たとある出来事や状況や変化等の情報をより多く集める力
- ④想定/想定する力 ある出来事や状況を見て自分自身で思いを設定できる力
- ⑤整理/整理する力 ある出来事に対し混乱している気持ちを整え、きちんとした状態にする力
- ⑥表現/表現する力 ある出来事の内的な心情を客観化する力

被虐待児の感情形成を図る「交流サロン」と「こころ日記」の推進事業 レポート①

子ども達の感情成長環境と感情基盤

【背景・理論編】



第1回ソーシャルアート
絵本コンペティション最高優秀賞受賞作品
絵本「かーくん」(たにひろこ作)より

児童養護施設の子供達・子ども虐待防止をテーマとする音楽朗読劇を是非ご覧ください！

音楽朗読劇「かーくん」

原作:たにひろこ(絵本「かーくん」)
脚本・演出:加藤孝子
出演:濱本奈津美(主役)、石岡さち子(語り)
音楽:大川知子(挿入歌「奏詩～いまここに」)
演奏:石井百合(ヴァイオリン)、大川知子(ピアノ)、江口義実(フルート)、高島彩(ファゴット)、渡辺麻衣(ソプラノ)



動画URL

<https://www.youtube.com/watch?v=sEa3bT59wk8>

音楽朗読劇「もしも、あの時」

原作:たにひろこ(絵)&加藤孝子
脚本・演出:加藤孝子
朗読:川村綾(オフィス北野)
出演:濱本奈津美、石岡さち子
音楽:大川知子(挿入歌「奏詩～はてのなく」)
演奏:石井百合(ヴァイオリン)、大川知子(ピアノ)、江口義実(フルート)、高島彩(ファゴット)、溪なつき(ソプラノ)



動画URL

<https://www.youtube.com/watch?v=jxQnw0NQdgl>

一般社団法人ソーシャル・アーティスト・ネットワーク



東京都千代田区神田小川町2-4-5 杉商ビル8階
☎ 03-6740-1650 ☎ 03-5283-8440
<http://www.socialartists.net> ✉ info@socialartists.net



一般社団法人ソーシャル・アーティスト・ネットワーク

オレンジリボン運動支援団体No.1418

虐待に遭った子ども達に不可欠な「情愛」

虐待に遭った子ども達の心のメッセージ

一般社団法人ソーシャル・アーティスト・ネットワーク（以下、弊団）は、2012年より虐待に遭った子ども達が暮らす児童養護施設での音楽教室・絵画教室・家庭的図書環境構築など、アートを通じて子ども達を応援してきました。

その中で、子ども達と接する際、自身の気持ちや考えを言葉で表現することが苦手で簡単に会話を済ませようと素っ気ない言葉を発したり、ちょっとしたやり場の無い状態になっただけで条件反射的に癩癩を起し暴力的になったりなど、様々な子ども達の心のメッセージに出会うことが多々ありました。また、子ども達の多くが、高校卒業と同時に施設を退所し就職しても、職場での人間関係がうまくいかず転職を繰り返した挙句無職となったり、表面的な優しさに騙され望まない妊娠・出産後子を育てられず施設に預けたりと、对人的・社会的能力の低さによる社会生活の困難や、いわゆる心の貧困の連鎖に直面しているという実態も施設職員の方から伺いました。

子ども達の自己肯定感とソーシャル・スキル・トレーニング

これらの原因と課題について、医学の世界では、虐待に遭った子ども達の多くは愛着不全や前頭葉発育不全によって思考・学習の障害や对人的・社会的能力の支障が生じており、さらにはフラッシュバックにより騒いだり暴力的になったりする反動的行動を起こすことから、まずは、愛着の再獲得と感情の言語化を図り、内省・対象化を進めていくことが不可欠であると言われていています。

一方で、日本の子ども達は概して「自己肯定感」が低く、世界各国と比べてもその低さが顕著であるという調査報告（内閣府「子ども・若者白書（平成26年度版）」）は広く一般に知られていることですが、この原因として、日本の教育環境や価値観が「知」に重きを置くあまり子ども達の「情」の育成を軽視しがちな点や、家庭の中で子どもの発する「感情」に対する親の応答的対応が不十分であることが指摘されています。そこで、昨今、ソーシャル・スキル・トレーニングのような、いわゆる感情リテラシー（スキル）を高めるべく取り組みが各地で行われており、発達障害を抱える子ども達にも適用され始めています。

被虐待児には感情のスキル・トレーニング以前にすべきことがある

弊団はこのような状況を踏まえて、先の事態を対処する手立てを模索し、アートに携わる者として「感情」という点に着目することにしました。

そもそも、子ども達の「感情」は、地域周辺の人達（親、兄弟・姉妹、友達、ママ友、近所の大人達など）との「情愛」ある関わりの中で様々な経験をし、成長していきます。昨今は、地域や生活環境も以前と変わり、子ども達における人との繋がりが少なくなり「感情」の成長機会も減ってきていると考えられます。それをスキル・トレーニングという形で補うことができるのは、少なくとも親からの「情愛」を乳児期から受けてきている一般家庭の子ども達と考えられます。残念ながら、施設で暮らす子ども達の多くは「虐待」に遭っており、親からの「情愛」は皆無に近いと言えます。それ故に、弊団は「感情」のスキル・トレーニング以前にすべきことを最優先に考えました。

継続的に子ども達の「情愛」に働きかける

幼少期に親からの「情愛」を受けられず「虐待」に遭った子ども達は、それを無かったこととするために脳がいわば一時的にストップ状態になり、知らず知らずの内に様々な防衛本能が働き、心を閉ざし、自身の「情愛」を育てることを辞めてしまっている状態にあります。そのような子ども達にとって、様々な大人と関わり合う事で喜びを実感しながら、「自己の心を育てる力」をつけ、「生きる力」として昇華していけるよう、心ある大人達が彼らの「情愛」に継続的に働きかけることが必要です。そのためには、子ども達が自ら心を開き「感情」成長できるような環境を用意する必要があります。

交流サロン・シート・日記による感情成長

児童養護施設「川崎愛児園」での取り組み

弊団は2019年度より児童養護施設「川崎愛児園」及びそのボランティアの皆さんの全面的な協力を得て、園で暮らす子ども達の「感情成長を促進する環境」と、感情形成における6つの課題項目で構成される「感情基盤」の概念モデルを開発・推進しております。

それらを具現化した取り組みが「お楽しみ交流サロン」「おやつタイムシート（感情基盤醸成シート）」「こころ日記」となります。

（2019年度 独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業）



お楽しみ交流サロン

弊団は児童養護施設「川崎愛児園」の職員やボランティアの皆さんとともに、被虐待経験のある子ども達の感情成長を促進する環境として「お楽しみ交流サロン」を推進しています。それは、隔月で毎回趣向の異なる「子ども達と大人達が分け隔てなく交流・楽しむイベント・ワークショップ」で、そこで発生する様々なコミュニケーションや触れ合いの中、子ども達は非日常的な時間を過ごします。



おやつタイムシート（感情基盤醸成シート）

「お楽しみ交流サロン」後、すぐに「おやつタイム」に突入します。そこでは、「おやつタイムシート（感情基盤醸成シート）」を使って、子ども達は大人達とコミュニケーションを図りながら、直前のイベント・ワークショップ時に芽生えたうまく言語化できない本当の気持ちに気づき、シートに書くことで「気持ちを出す→伝わる」という体験を積み重ねます（言語化・内省・対象化）。



こころ日記

自身の「感情」を振り返る頻度を高めるために、日々当り前に行われている行動時（朝起きた時、昼ご飯の時、寝る前など）の気持ちを、1行だけ書くことで振り返られる「こころ日記」を子ども達に書いてもらっています。この日記の運用ポイントは、月1度、全員分のその月の日記を回収して、1日分がきちんと書けたら10ポイント付与し、その累積ポイントが子ども達の励みに繋がるようにしています。

特筆すべきは、幼児ユニットにおいて、施設職員の方が子ども達の就寝前に全員で「こころ日記」を書くことにしたことで、その日の何気ない日常生活での気持ちを気に掛ける機会となり、言わば親子的なコミュニケーションが図られるようになったということです。

おどせ！気持ちマスター！(ビギナー編 Level.1)		2019年度 独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業		
[お名前:]		[管理人 チェック]		
日	しつもん	かめ	どうして? (理由)	チェック
月	7.1 朝起きた時の気持ち?			
火	7.2 学校に行く時の気持ち?			
水	7.3 授業中の時の気持ち?			
木	7.4 学校から帰ってからの気持ち?			
金	7.5 寝る前の時の気持ち?			
土	7.6 朝起きた時の気持ち?			
日	7.7 朝起きた時の気持ち?			
今週の気持ち		かめ	点數	いつ? 何人の時? どうして? どの時?